

北海道産水草とアクアリウム

江別市 大沼 弘樹

はじめに

北海道の湖沼や河川、水田などを覗くと、いろいろな種類の水草を目にすることができますが、それらを手元で育てたことがある方は、案外少ないかもしれません。

実際にやってみると、浅瀬の泥に根を張って、気中に茎葉部を展開する抽水性植物の多くは、バケツのような容器に泥や土を入れて、日向に置き、水を切らさないようにすれば旺盛に育ちます。泥底に根を張り、葉を水面に浮かべる浮葉性植物も、睡蓮鉢のような器で育てれば、大抵それなりに育ってくれます。ウキクサの仲間のように、水面を浮遊して生育する種類は、水中に多少の養分があれば、屋外に置いておくだけで水面が見えなくなる程どんどん増えます。

しかし、ほぼ全身が水面下にある沈水性植物を育てるのは、なかなか一筋縄ではいきません。沈水性の、いかにも水草らしい植物を育てる方法といえば、砂などを敷いた水槽に水草を植え込むアクアリウムが思い浮かびますが、自分で採集した水草を、金魚や熱帯魚を飼うような環境で育てるのは容易ではありません。水田や、身近な水域でよく見る種類でも、いざ水槽に入れてみると、生育が止まって、いつのまにか消えてしまったり、時には溶けるように枯れてしまったりするのです。しかも、いわゆる雑草的要素を持った普通種ほど、水槽で育てるのは難しかったりします。

ペットショップで水槽用に売られている水草の多くは、世界中の水草の中から、水槽の環境に適応しやすく、人工的に生産しやすい種類あるいは系統を選び抜いた結果と考えられます。したがって、お店で見ないということは水槽栽培が難しく当然だ、と言ってしまうまでもなのですが、北海道では普通種と言って良いほどありふれた水草の中にも、美しい種類が多くありますし、じつは水槽用に売られている種類も少なからず存在します。さらには、水槽ならではの美しい姿を見せてくれる種類もあり、なかなか興味は尽きません。

本稿では、筆者が小学生時代から25年程にわたって、北海道で自生が記録されている沈水性植物について、水槽での栽培を試行錯誤した私見を、拙いながら述べてみたいと思います。水草栽培に精通した方にとっては釈迦に説法のような内容ですので、読み飛ばしていただければ幸いです。

沈水性植物に必要な環境要因

まず、栽培方法を考える前に、沈水性植物の生育には何が必要なのかを考えてみたいと思います。水の中に生えているのだから、陸上植物とは違う要素が必要なのだろうという発想になりがちですが、カワゴケの仲間やミズゼニゴケの仲間、ウキゴケの仲間といった一部の水生コケ類を除けば、ほとんどの沈水性植物は、陸上の維管束植物が再び水中環境へ戻っていったものと考